

「米國ニ於ケル猶太人ノ活動」内容概観

第二十一章 米國猶太人ノ其ノ勢力隠蔽手段

現在露獨波蘭諸國民ハ移民トシテ米國ニ入ルコト能ハサルニ拘ラス猶太人ノミハ各國ヨリ自由ニ渡米シ而モ近來其ノ數激増シ米國移民ノ殆ント全部ハ悉ク猶太人^ハニミナス其ノ態度恰モ米國ヲ征服シタル者ノ如ク堂々トシテ來リ如何ナル手段ヲ以テスルモ之ヲ阻止スルコト能ハス加之米國ニ於テハ國勢調査ニヨリ各人種別ノ統計明瞭ナルモ獨リ猶太人ロノミハ全ツ不明ニシテ二十年來調査ノ都度猶太代表者及院外團等ハ之ニ反對シ猶太ナル語ハ宗教上ノ語ニシテ人種ヲ示スモノニ非スト頑強ニ抗辯シ其ノ一例タル一九〇九年上院委員會ノ議事録ニ依ルモ明ナリ即チ米國猶太人ハ猶太移民ヲ制限スルカ如キ法律ニハ反對ニシテ又一旦入國ノ上ハ猶太人トシテ人種的ニ區分セラレルヲ欲セスト雖猶太人相互ニ於テハ輩々ク猶太人ナリ

トノ意識ヲ固持シテ團結シアリ而シテ彼等ノ猶太人トシテ區別
セラレルヲ欲セサルハ自己ノ勢力ヲ隱匿スル一手段ニ外ナラス

第二十二章「猶太人ハ一國民ナリヤ」ニ對スル猶太側ノ證明

猶太人ハ異人種ニ向ヒ猶太人トハ決シテ一民族ニ非スシテ單ニ宗教上
ノ名稱ニ過キスト強辯スルニ及シ猶太人相互間ニ在リテハ完全ナル
一民族一國民ナルコトヲ高唱シ猶太人ニハ顯著ナル一國民性アリテ
體質的ニモ精神的ニモ決シテ他國民ト混同シ得サルモノナルヲ説キ
縱令如何ニ其ノ信教ヲ喪スルモ尚自ラ猶太人タルコトヲ拒否セサル
限り猶太國民タルヲ脱シ得サルヲ力説シアリ加之猶太教ハ猶太
民族ト別々ニ考フヘカラサルモノニシテ基督教ノ如ク個人ノ心靈ヲ救
フ單純ナル教義ノモノニ非ス猶太國民ノ生存ト堅ク結合シアル
猶太愛國主義ナルコト及猶太人ハ將來猶太王國ヲ建設スルノミ
ナラス各國家ノ上ニ一ノ超國家ヲ建設シ「シエルサレム」ヲ其ノ首府ト

0345

セントノ堅キ信念ヲ有スルコト等ハ幾多ノ猶太名士、學者、代表者
等ノ著書、宣言等ニ依リ證明スルヲ得ヘク前章米國上院委員
會ニ於ケル陳述トハ全然正反對ノモノナルコト明ナリ

第二十三章 紐育財界ニ於ケル猶太派、非猶太派ノ對立

猶太人カ好ンテ都市ニ集ルハ其ノ先天的性質ナルカ紐育ニハ
百五十餘萬ノ猶太人アリテ第一ノ猶太都市タル「ワルソー」ノ三十萬
ニ比シ五倍ノ多キヲ占メ世界ニ於ケル全猶太人口ノ十分一ハ紐育
ニ在ス。全市ノ「デパートメントストア」ノ殆ント全部及出來合服商、毛皮
商、洗濯業ハ全然猶太人ノ手中ニアリス。二万七千ノ新聞賣店中
二万五千ハ猶太人所有ニシテ紐育東部ノミニテモ猶太寺院數三
百六十ヲ算ス。紐育金融界ニ於ケル猶太人ノ勢力ハ偉大ニシテ
其ノ特色トスルハ信託會社、預金銀行等ハ更ニ無ク悉ク個人銀
行ニシテ一種ノ金貸タルコト及社、公債、株券等ヲ引受クルモ直ニ

公衆ニ賣却シ自ラハ常ニ現金ヲ收藏シテ機ヲ窺ヒ投機的ニ巨利ヲ博スルコトニ存ス。仲買投機ハ彼等ノ天才ト謂フヘク甚シキハ奸手段ニヨリ無智ノ公衆ヲ蹂躪スルモノ頗ル多シ。而シテ紐育株式取引所組合員タルコトハ猶太人ニトリ非常ノ難事ナルニ拘ラス堅忍執拗ノ彼等ハ着々之ニ喰ヒ入り一八七二年ニハ組合員總數一千九人中猶太人數僅ニ六十人ニ過キサリシニ一九一九年ニハ一千一百人中ノ二百七十六人ヲ占ムルニ至レリ。紐育ニ於ケル猶太人ノ勢力ハ一時非猶太人側ヲ凌ク觀アリシカ非猶太側ノ結束對抗ニヨリ現時ハ幾分非猶太側優勢ナルノ狀況ニアリ

第二十四章 上下兩種ノ猶太金權

猶太財閥カ初メテ米國ニ關係セルハ「ロスチアイルド」家ニ始マリ同家ノ基礎ヲ造リシハ米國ナリト云フモ過言ニ非ス。由來猶太人ニハ國家及愛國心無キヲ以テ各國間ニ戰爭アル毎ニ巨利ヲ博シ爲

0347

ニ猶太財閥ハ「鮮血ノ財寶」ト非難セラレ

一九一一年「ロスタイルド」カ獨帝ニ書ヲ送り歐洲戰爭勃發ノ時機

遷延ヲ勸告セルカ如キモ財利ヲ大ナラシメントスル目的ニ外ナラス

紐育ノ猶太財閥巨頭ハ多ク獨國「フランクフルト」市出身ニシテ彼等

ハ相互姻戚關係又ハ特別聯合關係ヲ有シ且世界各地ノ猶太

財閥ト密接ノ連絡ヲ保持ス其ノ代表的ノモノハ「シツフレ」ニシテ彼ハ

露國ノ猶太人虐待ヲ恨ム所アリテ日露戰爭ニ際シ大ニ日本ヲ

援助シ同時ニ新興日本ニ其ノ勢力ヲ扶殖セント努メタルモ日本ハ

賢明ニシテ其ノ手ニ乗ラス爲ニ彼ハ却ツテ日本ニ反感ヲ抱クニ至レ

リ之レ排日問題上輕視スハカラサルコトナリ

猶太人ノ結合ニ對抗セン爲非猶太財力家ノ結合生シタルヲ以テ

猶太側ハ其ノ發展意ノ如クナラサルヲ看取シ中米、墨國等ト結ビ

大戰後ハ殊ニ南米ニカヲ注キ猶太移民モ盛ニ南米ニ行ハレ既

三

0348

ニ南米ニ於ケル猶太財閥ノ勢力ハ牢固タルモノアリ一方紐育ノ下級猶太人間ニハ奸悪ナル財的犯罪盛ニシテ最近暴露セル大竊盜團ノ如キ株券公債等ノ竊取價格一千二百萬弗ノ多額ニ達シ其ノ手段ノ巧妙ニシテ且脉絡ノ充分ナル真ニ驚クノ外ナシ要スルニ是等上下ノ財的勢力ヲ逞フスルハ一ニ彼等猶太民族ノ結束強固ナルニ外ナラス

第二十五章 米國ノ「ヂスレリ」超勢力ノ一猶太人

猶太人ノ米國ニ於ケル勢力ハ大戰後大ニ増加シ米國戰爭成金ノ七十三%ハ實ニ猶太人ナルカ更ニ驚クハキハ「米國猶太」執政官ト呼ハレ又自ラ「米國」ノ「ヂスレリ」ヲ看ヨト豪語シ且米國議會ニ一委員會ノ調査ヲ受ケタル席上「予ハ大戰中何人ニモ優ル大勢カヲ有シタリ」ト揚言セル米國生レノ一猶太人アルコトナリ彼ハ「バラチ」ト呼ヒ一醫師ノ子ナルカ株ノ賣買其ノ他ノ實業ニ成功シ諸會社

諸工場ヲ有シ猶太財閥ノ一人トナリシモ敢テ天下知名ノ士ニハ非ス
然ルニ一九一五年早クモ將來米國ノ參戰ヲ洞察シ「ウヅド」將軍ノ
野營訓練事業ヲ後援シ屢々大統領「ウイルソン」ニ戰備ノ忽ニスヘ
カラサルヲ献策シ米國々防法ノ制定ニ際シテハ陸軍卿ノ諮問ヲ
受ケ聽テ參戰トナルヤ國防會議顧問委員トナリ軍需工業局ノ
一員トナリシカ事實軍需工業局ヲ全ク一人ニテ左右シ後今局カ殆ント
國防會議ノ主体トナルヤ大統領ノ厚キ信任ノ下ニ一切ヲ處理シ
工業動員ノ全責ニ任シ加之募兵局ヨリ進ンテ軍隊政府ニ迄其
勢力ヲ及ホシ且自身亦戰爭成金ノ一人トシテ巨利ヲ博シタリ

第二十六章 米國ニ於ケル猶太人ノ獨裁概觀

「ウイルソン」大統領カ議會ヲ信用セス專權ノ處置多カリシトノ非難
アルモ之レニ今氏カ自己ヲ圍繞スル猶太財閥ニ聽從セル結果ニ外ナ
ラス而シテ此猶太人ノ獨裁ノ代表者タルハ「バラチ」氏ニシテ「大戦

ニ關係セルハ前述ノ如ク一九一五年ニ初マリ全ク之ト關係ヲ絶チシハ
巴里平和會議終了後ニアリ大戦中米國政府ノ支出總計ハ三百
億弗ニシテ内百億弗ハ聯合國側ヘノ貸付ナルモ米國ニ於ケル諸
物資購入ニ費サレ其ノ全權ハ「バラチ」氏ノ掌中ニアリキ。全氏自身
ノ説明ニ依レハ其ノ權限ハ(一)對個人事業資本ノ統制(二)全原料
ノ統制(三)工業統制(四)軍務召集ノ爲ノ國民統制及(五)勞働
人員統制ニシテ例ヘハ紐育市カ學校建設ニ八百萬弗ヲ使用セン
トセルモ「バラチ」氏ノ反對ニ逢ヒテ果サホリシカ如キ又價格二千五百弗
以上ノ建築ヲ軍需局ノ承認ヲ受ケサルハカラスト規定セルカ如キ又
全氏統制下ノ米國工業ハ三百五十餘ノ部門ニ分レタルカ如キ軍務召
集人員ノ範圍ヲ定メタルカ如キ或ハ又物價ヲ指定セルカ如キ如何
ニ其ノ絶大ナル權限ヲ有シタルカヲ知ルヘシ

第二十七章 猶太銅王ノ戰時利得壟斷

0351

バラチ氏が巴里平和會議ニ列席セルハ無線電信ニヨリ米大統領ノ
招致ヲ受ケ經濟顧問トシテ赴ケルモノニシテ公會議ニ於テハ經濟班
及高等經濟會議ニ於ケル米國委員タリシノミナラス屢々五大國首
相會議ニモ臨席セルニ徴スルモ如何ニウイリソンノ信任厚ク絶大ノ
勢カヲ有シタルカヲ知ルヘシ、次ニ首題ノ件ニ就キ述ヘシニ由來世
界ノ銅ハ猶太人ノ支配スル所ニシテバラチ氏自身亦銅王ノ一人ナル
カ米國參戰直前彼ハ紐育ノ猶太ニ大銅王ト會見シ後參戰ト
ナルヤ彼ハ其ノ一人タル「レウインソン」家ノ代表タル米國金屬販賣會社
ト他ノ一人タル「ガッベンハイム」家ノ代表タル米國熔鑛精煉會社トヲ
指定御用商トナシ前者ハ主トシテ米國內ノ取引ヲ又後者ニハ聯合
國側ノ注文ヲ一手專賣トナクシメ戰時利得ヲ壟斷シタリ
而シテ表面ハ該會社ノ愛國心ニヨリ時價一封度約三十五仙ノ價格
ナル銅ヲ僅ニ一六仙ニシテ四千五百萬封度購入シタル如ク宣傳シアル

五

0352

モ實際政府ハ一封度ニ付二十七仙ヲ支拂ヒタルノミナラス休戰後
間モナク政府ハ過剩ノ銅一千六百五十萬封度ヲ僅ニ一封度十五仙
餘ノ廉價ヲ以テ前記會社ニ拂ヒ下ケタリ。サレハ兩會社及ハ
氏ノ三大銅王ハ全然銅ニヨル多大ナル戰時利得ヲ壟斷セルモノナリ

第二十八章 猶太人ノ米國劇界支配

劇場ハ新聞ト共ニ民心指導ノ一大機関トシテ猶太側ノ重視セル
所ナルカ今ヤ米國ノ劇界ハ全ク猶太人ノ支配ニ歸シタルノミナラス
活動寫真亦同様ナルヲ以テ幾百萬ノ米國民ハ毎日毎夜猶太
人ノ宣傳ニ浴シツツアルナリ。劇ノ猶太化ハ即チ劇ノ商賣化ニシテ
又藝術ノ墮落ヲ意味シ。技藝ハ機械ト代リ天才的眞ノ名優
ハ排斥セラレ如何ハシキ花形女優濫造セラレ沙翁劇、歷史劇等
ノ上品ナルモノハ影ヲ没シ淫蕩極ナル喜劇、笑劇ノ類觀迎セララル
ニ至レリ而シテ此猶太人ノ劇界支配ハ一八八五年以降漸次勢力ヲ

0353

増シ殊ニ猶太人經營ノ演劇契約會社ヲ中心トシテ一大「トラスト」ヲ成形スルニ至リ全ク劇界ハ猶太人ノ爲征服セララルルニ至レリ

第二十九章 猶太人演劇「トラスト」ノ創始

猶太人カ劇界ヲ支配スルト共ニ親猶太的ナル幾多ノ劇ハ宣傳ノ爲ニ作ラレタルカ此事ハ悉ク失敗ニ終レリ、非猶太人ノ支配人ハ藝術ヲ主トスルカ故ニ劇經營ニ依リ蓄財シタルモノナキニ猶太人ハ皆巨萬ノ富ヲ造レリ此劇ノ商品化ハ演劇「トラスト」現出以來益々甚シク十年内外ニシテ既ニ國內重要都市ノ三十七劇場ヲ支配シ結束シテ獨立經營ノ劇場壓迫ニ努メタル結果非猶太人側ノモノハ漸次經營困難ニ陥リ「トラスト」側ハ之ニ乘シテ買収シ多クハ之ヲ活動館ニ変シタリ、之ニ對抗シ飽迄藝術擁護ノ旗幟ノモトニ奮闘セル幾多ノ名優アリシカ漸次壓迫誘惑ニヨリ凋落セリ而シテ劇ノ墮落ハ引キテハ一般ノ言語、動作、情緒ヨリ宗教、法律

六

0354

ニ迄影響ヲ及ホスモノナルヲ以テ「トラスト」ヲ非難スルモノアリト雖猶太側ノ迫害ハ各種ノ方面ヨリ諸種ノ形式ヲ以テ加ハリ來リ神聖ナルハキ法廷スラ猶太側ノ籠絡スル所トナリテ又如何トモスル能ハサリキ然レモ近頃ニ至リテハ「トラスト」側ニ對シ齊シク猶太人ヨリナル他ノ「トラスト」現出シテ對抗壓倒シタルヲ以テ十年前ノ大勢力ハ全ク失墜セリ

第三十章 猶太人カ自己ニ對スル抗議ヲ資本ニ利用セル手段
現在米國劇界ヲ支配シアル主ナルモノハ多クハ其ノ前身靴磨、新聞賣子、切符賣及浮浪人等ノ如キ劇ニ對スル無理解、無教養、猶太人ヨリ成リ其ノ成功セルハ全ク劇ヲ墮落セシメテ商品化シタルニヨルモノニシテ猶太人タル男女優亦近來大ニ増加シ來レリ而シテ演劇「トラスト」カ過度ニ劇界ヲ專有シ暴狀ヲ逞フシタル結果外部ヨリ反感ヲ買ヒ又内部ニモ勢力爭アリテ遂ニ一方ノ「シネハート」一派ハ「トラスト」

0355

ヨリ分離セルカ猶太名優「ラスコ」ト合同シ「トラスト」派ニ對スル「獨立派」
ヲ標榜シテ起チ世間ノ同情ヲ得テ遂ニ別個ノ「トラスト」ヲ組織シ「九
一〇年以降漸次旧「トラスト」ヲ廢倒シ今ヤ全ク之ニ取リテ代レリ即チ猶太
系ナル旧「トラスト」ニ對スル反感反抗ヲ利用シ新「トラスト」起リテ劇界ヲ
支配スルニ至リシモ此新「トラスト」モ亦全然猶太人ヨリ成ルカ故ニ結局
劇界ハ依然トシテ猶太人ノ手中ニ掌握セラレアルモノトス

第三十章 活動寫真問題ニ對スル猶太人概観

米國ノ活動寫真界モ亦全然猶太人ノ支配スル所ナルカ目的ノ爲ニハ
手段ヲ選ハサル彼等猶太人ハ淫蕩極マル映画ヲ製作シ觀衆ヲ引
キツケ巨利ヲ博シアリ各洲ニハ映画檢閲法案提出セラルルモ猶太
人ハ其ノ通過ノ自己ニ不利ナルヲ知ルカ故ニ極力之ヲ妨害シ映画刷
新ノ運動スラ猶太排斥ナリト讒誣シアリ 紐育ニ於ケル活動寫真
館主大會ニ出席セル五百餘人悉ク非基督教的猶太人ニシテ異人
七

0356

種ハ唯一名ノミナリシト云フ映画製作工業界亦同様ニシテ全映画ノ
九〇%ハ紐育市及「ロスアンゼルス」市ニアル十大會社ニヨリ製作セラレ其ノ
下ニ幾多ノ小會社屬シアルモ一切ノ權ハ此大會社ノ手中ニアリテ其ノ八五
%ハ猶太人ノ勢力下ニアリ故ニ如何ニ道德上風教上有益ナル各
映画アリトモ之ヲ映寫スルニ由ナク又基督教的色彩アルモノハ
彼等ハ努メテ之ヲ排斥ス猶太人カ活動ヲ支配スルノ弊ハ獨リ風
教上ノ弊害ノミニ止マラス彼等ノ製作紹介ニ係ハル米國生活、米
國家庭等ハ決シテ眞ノモノニ非ス悉ク虚偽、策略、罪惡及淫靡
音樂等ヲ基調トスル猶太式ノモノナルカ故ニ活動ニヨリ米國生活
ノ世界ニ誤傳セララルルノ弊亦恐ルハキモノアリ而シテ如何ニ之ニ對シ
攻撃スルモ活動ノ背後ニ儼存スル一大勢力ノ何物ナルカヲ知ラ
サル限り寸毫ノ効果モ期待スルコト能ハサルヘシ

第三十二章 活動寫真界ニ於ケル猶太人勢力ノ優越

0357

元來活動寫真ノ發明ハ勿論發達ニ就キテモ猶太人ハ毫モ関セ
サル所ナリ然ルニ今ヤ米國及加奈陀ノ活動營業及映画製作
工業ノ甘汁ハ全ク猶太人ニ吸収セラレ代表的ナル大活動會社
ハ何レモ猶太人ノ支配スル所ニシテ其ノ社長タル人物カ四十乃至
五十ノ壯年ナルニ係ラス何レモ巨萬ノ富ヲ有スルコトト其ノ前身
カ鼻猥ナル一錢覗店其ノ他ノ安興業關係者又ハ新聞配達、
番頭、行商等ヨリ一躍經上リタルモノナルコトハ注目ニ値ス又近頃
活動界ノ傾向トシテ留意スヘキハ映画ヲ猶太民族ノ宣傳及
基督教ニ對スル惡宣傳ニ利用スルコト多クナレルト彼等ニ好都合
ナル花形俳優ヲ造リ映画ノ内容ヨリモ寧ロ「チャプリン」物「ピック
アップ」物等ノ如ク俳優ノ名ニヨリ之ヲ評價スル如キ會社ニ都合
ヨキ方法ヲ創メタルコトナリ

第三十三章 猶太結社「ケヒラ」紐育ヲ支配ス

0358

米國ニハ猶太人ノ組織スル無數ノ團體アリト雖其ノ隱蔽^隠ノ巧
妙ニシテ而モ勢力ノ絶大ナルコト紐育^{ケヒラ}ト「米國猶太委員
會」トニ及フモノナシ。紐育^{ケヒラ}ノ表面上ノ目的ハ猶太人ノ權利
ヲ擁護スルニアルモ内面ノ真目的ハ先ツ紐育ヲ猶太化シ遂ニ
ハ米國ヲ猶太化セントスルニ在リ。紐育ニハ全世界ノ猶太人口
ノ十分ノ一ニ相當スル百五十萬ノ猶太人ヲ有シ其ノ主ナルモノハ
露領波蘭生レノ猶太人ニシテ好シテ猶太街ニ群居シ人口密度
ノ大ナルコト想像外ナリ「ケヒラ」ハ紐育市ヲ十八箇ノ「ケヒラ」區ニ分
チ更ニ之ヲ百箇ノ「ケヒラ」部落ニ區分シ別ニ猶太政府ヲ樹テ猶太
人ニ関スル行政、教育、裁判等何一ツ具備セサルモノナシ。一九〇八年
創立ノ際集レルモノ實ニ二百二十二箇ノ各種猶太人團體代表者
ナリシカ翌年ノ大會ニハ六百八十八團體ヲ有シ現在ハ約一千ノ團
体ヲ含有ス而シテ之ニ加盟シアルモノハ上下、貧富、財閥、過激派

0359

悉ク網羅シアリテ其ノ主義ト立場トゾ異ニセル各種猶太人カ唯今一
民族ナル結合帯ニヨリスクモ偉大ナル団体ヲ組織シアルハ實ニ
奇怪トスル所ナリ

第三十四章 米國ニ於ケル「權利」ニ對スル猶太人ノ要求

「米國猶太委員會」ハ一九〇六年ノ創立ニ係ハリ全米國ヲ十二區
ニ區分シ紐育ハ其ノ第十二區内ニ含マレ「紐育ケヒラ」ハ其ノ主
体タルノミナラス又實ニ米國猶太委員會ノ核心タリ原動力
タルモノナリ 該委員會ノ目的亦紐育「ケヒラ」ト同様猶太人
ノ權利權護ニアルモ裏面ノ目的ハ又積極的ニシテ猶太人
ノ勢力扶殖ト米國ノ猶太化トニアリ 米國ニ於ケル猶太人
ノ要求ノ如何ナル種類ノモノナルカヲ示サンカ爲原動力タル紐育
「ケヒラ」ノ要求ノ主ナルモノヲ列記スレハ左ノ如シ

「世界各國ヨリ米國ヘノ猶太移民ヲ無制限ニ許可スルコト

九

0360

- 二 市及州廳並聯邦政府ハ公ニ猶太ノ宗教ヲ承認スルコト及該當局ノ手ニヨリ公文書又ハ集會ニ於ケル基督關係事項ヲ一切抑制スルコト
- 三 猶太ノ安息^日ヲ公認シ且日曜日ニ休業セサルモ可ナル様改正スヘキコト
- 四 公共ノ學校場所警察等ニ於テ^コクリスマス^ス關係ノ行事ハ一切中止スルコト
- 五 如何ナル目的ヲ以テスルモ猶太民族ヲ非難シタル官吏ハ免官又ハ起訴スルコト
- 六 裁判所内ニ猶太人ノ爲ノ特別裁判ヲ設置シ又各學校ニ於テハ猶太人ニ及對スル文學ヲ除去スルコト
- 七 一般ノ廣告ニ「基督教徒」「國家宗教國民性」等ノ語ヲ使用スルハ猶太人ニ對スル差別待遇ナルニ就キ之ヲ禁止スルコト

0361

第三十五章 「猶太權利」ト「米國權利」トノ衝突

吾人ノ猶太人問題研究ハ決シテ宗教關係ニ立脚シ居ルモノニ非サルニ拘テス猶太人ハ自ラ之ヲ宗教問題トナシ猶太研究ヲ宗教的迫害ナリト稱シ基督教ニ對抗シテ猶太教ヲ公認セシメ更ニ進ンテ基督教ヲ抑壓スルニ努力シアリテ紐育「ケヒラ」及米國猶太委員會ノ設立以降益々熾烈トナレリ 本章ニハ主トシテ前章「ケヒラ」ノ要求ニ、三、四項ニ相當スル實例ヲ列擧シアリ 而シテ猶太側ニ於テハ異人種側ノ及「セミチツク」主義ヲ云々スルモ之レ誣言ニシテ世上及猶太主義ハ或ハ之レアラシモ決シテ及「セミチツク」主義ナク現ニ「パレスタイン」ニ於テハ猶太族カ「セミチツク」族ニ排斥セラレアルヲ以テモ之ヲ知ルハク猶太問題ヲ宗教問題トナスハ全然當ラサルモノト謂フヘシ

第三十六章 「猶太權利」米國諸學校ヨリ研究ヲ驅逐ス

0362

前章記載ノニ團體ニ次キテ強大ナル勢力ヲ有スルハ「ブナイブリス」
獨立團ニシテ會員今ヤ一百万人ニ達シ全世界ヲ十一區ニ分テ内七
區ハ米國內ニ在リテ其ノ集會所數ハ四百二十六ヲ算ス本團ノ
創始ハ古ク一八四三年ニシテ初メテ海外ニ發展セルハ一八八五年ナリ
其ノ公然ノ目的トスル所ハ愛國心ノ養成ニ在リテ會員ノ多クハ
比較的自自由ナル猶太人ヨリ成ルト雖實ハ全然猶太主義ノ團體
ニシテ其ノ顯著ナル特性トモ云フハキハ從來米國外交ノ裏面ニ
在リテ之ニ干渉シ左右セルコト甚シキト該團ノ内ニ別ニ「誹謗反對
同盟」ナルモノアリテ飛耳張目苟クモ猶太人ニ對シ不利ナル言
動異人種側ニアルトキハ直チニ之ヲ抗議シ來ルコトナリ該同盟ノ
ナシタル最モ甚シキ且廣汎ナル反對ハ沙翁ノ「ウニス」商人^レヲ
各種學校ヨリ或ハ驅逐シ或ハ驅逐セント努力シタルコトニシテ一九一九
年十月該同盟ノ公表スル處ニヨレハ既ニ驅逐ニ成功シタルモノ百五十

0363

市ニ上ル由ニシテ其ノ實例ハ悉ク本章ニ掲ケアリ

第三十七章 猶太人ノ典型タル英宰相「ジスレリー」

猶太人が自己防衛ノ常套手段トスルハ「誤傳」又ハ「迫害」ナリ
トノ泣言ヲ並フル辯解ト今ハ他ノ團體ト結合シテ其ノ責任ヲ
之ニ轉嫁シ糊塗スルコトナリ其ノ著シキ例ハ「フリーメゾン」結社
及「ゼスイット」派ト手ヲ握リ其ノ蔭ニ隠レテ毒牙ヲ逞フセルコトニシテ
佛國革命ノ際ノ偽「フリーメゾン」ハ大ニ猶太人ノ保護ヲ受ケタル
モノナリ又米國ニ於テモ國父「ワシントン」ノ時ト「アダムス」大統領ノ時ト
ニ回ニ亘リ之ニ類スル苦キ經驗アリ、猶太人ノ世界的計畫カ決シ
テ「誤傳」又ハ「迫害」ニ依ル「讒誣」ニ非サルコトヲ説明センカ爲有力
ナル一例ヲ擧ケシニ猶太人カ機會アル毎ニ同族ノ誇トスル夫ノ
大英帝國宰相「ピトコンスフィールド」伯「ベンジャミンジスレリー」ハ猶太人
中最モ異彩ヲ放ケタル一人ニシテ彼ハ猶太人ハタルコトヲ光榮トシテ

堂々之ヲ發表シタルカ同時ニ猶太人ヲ説明スル爲ニ幾多ノ著述
ヲナセリ彼ハ其ノ著書ノ一タル「コミングスビー」中ニ現レ來ル一猶太人
「シドニア」ノ性格言動閱歷事業等ニヨリ自己ノ欲スル猶太人
ヲ描出セリ即チ「シドニア」ハ西班牙戰爭ノ紛乱期ニ乘シ巧ニ敵
味方兩者ニ軍需品ヲ補給シテ一大資産ヲ造リ平和克復後英
國ニ移住シ全カヲ擧ケテ「ウォータール」公債ニ應シ之ニ起因シテ遂ニ
歐洲ノ一大財源トナリ歐洲諸國戰後疲弊シタルニ乘シ各政府ノ
莫大ナル借款ニ應シ各國ノ宰相ヲ初ノ黒幕裡ノ手先ト脈絡
ヲ保持シ歐羅巴ノ黄金王ヲ以テ任シ國際關係ヲ左右シ列國ノ
樞機ニ參シタルコト及列國ノ各樞要ノ地位ニハ皆猶太人ノ蟠居シ
アルヲ述ヘタリ而シテ此事ノ猶太側ノ極力否定スル議定書ニ一致
スル所多キハ奇ト謂ハサルハカラス

第三十八章 猶太人ト抗爭シテ破レタル「ダフト」前大統領

0365

猶太問題ニ関スル本記事發表セラレタルカ爲猶太人ハ之カ防衛手段トシテ大々的ノ運動ヲ始メ非猶太人ニ取り入り之ヲ否定セシメツアルカ前大統領ヲダフトレモ亦之ニ利用セラレタル一人ナリ今氏ニ就キテハ大統領在職中猶太人ノ爲ニ手ヲ燒キタル事例アリ 最初露國ハ猶太人ニ富裕ナル地方ヲ與ヘ優遇シタルカ彼等ハ毫モ土地ノ開發ヲナサス却ツテ露人ノ膏血ヲ絞ルヲ能事トシタル爲猶太人排斥起リタリ然ルニ彼等猶太人ハ陸續渡米シ一旦米國民トナリタル上再ヒ露國ニ引キ返シタルモ露國ハ之ヲ遇スルニ依然猶太人ヲ以テセルカ爲ニ茲ニ猶太人等ハ米國政府ヲ利用シテ露國ニ當ラシメ盛ニ針小棒大ノ宣傳ヲナシ露國ノ猶太人虐待及米國市民侮辱ヲ高唱セリ「ダフトレ大統領ノ時代ニ於テモ此宣傳アリシ爲在米猶太ノ代表者等ハ大統領ト會見シ一八三二年以來存在セシ米露通商條約ノ廢棄ヲ迫リシカ大統領ハ固ク之ヲ拒絶セルヲ

0366

以テ彼等ハ大ニ憤懣シ猶太財閥ハ立所ニ莫大ナル資金ヲ集メ
之ヲ運動賞トシテ上下両院議員ニ盛ニ運動シタル結果一年ナラス
シテ米國議會ハ米露通商條約ノ廢棄ヲ決議シテ大統領ニ
迫リタル爲遂ニ大統領モ屈シ爾今「タフト」氏ハ猶太人ニ對シテ
ハ再ヒ昔日ノ如キ強硬ナル態度ヲ持セサルニ至レリ

第三十九章 新聞記者カ猶太人ノ羈絆外ニ立ラル當時狀況
猶太人カ猶太民族批評者ニ加フル報復ハ脅威及攻撃ニシテ
若シ對手カ商業関係者ナル時ハ必ス「ホイコツト」トナリテ現ハルルハ
世人ノ熟知スル所ナリ 就中紐育ニハ此例枚擧ニ遑アラスト雖
最モ顯著ナル實例ハ紐育「ヘラルド」紙ト猶太側トノ抗爭ナリキ
同新聞ハ九十年間報道界ノ重鎮タルノミナラス社會事業ニモ
種々ノ功績アリ 社長「バネット」ハ決シテ猶太人ニ惡感ヲ有シタル人ニ
非サレトモ記事ニ関シテハ絶体ニ外部ノ干渉ヲ許サナリシ剛直ノ士

0367

ナリシカ 紐育市長改選ニ際シ 猶太側ハ 猶太人市長ヲ 擁立セント
欲シ 紐育各新聞ハ 經濟的根源タル 廣告主就中其ノ 大部ヲ
占ムル「デパートメントストア」連合シテ 秘密裡ニ 盛ニ 諸新聞ニ 運動
セリ「ヘラルド」ハ之ヲ 拒否セルノミナラス 其ノ 秘密依頼狀ヲ 紙上ニ 公
表セルヲ以テ 猶太人側ノ 憤慨甚シク 其ノ 後 猶太側ノ 有力ナル
商會主ニシテ 慈善家ト目セラルル「ストラウス」ト「ベネット」トノ 間ニ 偶々
論争アリシヲ 好機トシ 猶太側ハ 復讐ノ 意味ヲ以テ 廣告ノ「ホイコ
ット」ヲ 行ヒタリ。モトヨリ「ヘラルド」ノ 受ケタル 打撃ハ 大ナリシモ「ベネット」
ハ 毅然トシテ之ニ 堪ヘ 反對ニ 非猶太側ノ 廣告ヲ 掲ケテ 對峙セル
カ爲 遂ニ 猶太側ヨリ 屈シテ「ホイコット」ハ 自然ニ 消滅スルニ 至レリ
然レトモ「ヘラルド」モ「ベネット」ノ 死後 遂ニ 他社ニ 併合セラレ 紐育「タイムズ」
モ 猶太人ノ 手ニ 歸シ 續テ 煽動悪辣ヲ 事トスル 夫ノ「ハースト」出ラ來
リ 今ヤ 紐育新聞界ハ 全ク 猶太系ト 化シ 猶太問題ニ 関スル 眞ノ

0368

報道ハ最早紐育新聞ニ期待シ得カルニ至レリ

第四十章 猶太人カ「モーゼンソウ」報告ヲ忌諱スル理由

茲ニ波蘭ノ猶太問題ヲ論スルハ稍ニ論外ニ亘ルノ感アレトモ二十五萬人ノ波蘭猶太人陸續移民トシテ渡米シ來^ツアルコトト波蘭ノ猶太人迫害ナル宣傳盛ニ行ハレアルトニヨリ之カ研究敢テ無意味ナリトセス波蘭ノ猶太人問題云々セラルルヤ米國ヨリハ「モーゼンソウ」氏一行ヲ又英國ヨリハ「ガミエル」氏一行ヲ派遣シ之カ調査ニ任セシメタリ而シテ右両氏共猶太人ナルカ「モーゼンソウ」氏ハ頗ル評判良キ公平ノ人ニシテ其ノ調査報告ハ議會ニ提出セラレ公表スル爲印刷セラレタルニ拘ラス其ノ報告ハ波蘭ノ真相ヲ穿チアリテ猶太人ノ宣傳ノ爲却ツテ不利ナルモノアルニヨリ猶太側ノ手ニヨリ殆ント闇ニ葬リ去ラレテ之ヲ入手スルコト頗ル困難ナリ之ニ及シ「ガミエル」報告ハ猶太人間ニ盛ニ流布セラレ宣傳ノ材料トナリツツアリ右調査ニ関シ

0369

テハ右ノ外補足トシテ「ジアドウイン」少將、コイト大尉「ランホルド」ノ
三氏ノ報告アルモ何レモ「ガミエル」報告トハ異ルモノナリ本篇ニハ
各項ニ就キ五人ノ報告ヲ比較對照シアリ以テ如何ニ波蘭ノ猶
太人問題カ猶太人ノ宣傳ニヨリ誇張セラレ讒誣セラレアルカ
ヲ知ルニ足ルモノトス

第四十一章 猶太人平和會議ヲ波蘭束縛ニ利用ス

前述「ガミエル」氏ノ報告ト他ノ五氏ノ報告トノ差異ハ前者カ表
面ノ事實ニ止リ且事實ニ波蘭人側ノ非ヲ擧ケアルニ及シ後者
ハ其ノ裏面ノ原因ヲモ「闡明」セントスルモノナルコトナリ假リニ猶太
側ノ宣傳ヲ真ナリトスルモ其ノ迫害、攻撃及虐殺等ニ就テハ
何等カノ原因ナカルハカラス此點ニ関シ非猶太人タル三氏ノ報告ハ
勿論「モーゼンソー」氏報告モ「レンベルグ」事件及「ピンスク」騒擾等ニ関シ
真相及動機ヲ明ニシアルモ猶太人タル「ガミエル」氏報告ハ大ニ缺ク

ル所アリ世人ハ波蘭カ既ニ獨立セル自由國ナルカノ如ク感スルモ
全國ハ平和會議終了後ト雖赤露軍ノ侵略ヲ蒙リ非常ナル
努力ノ後漸ク數手退シテ今ヤ小康ヲ保テアリト雖一方國內ノ狀
態ヲ見ルニ波蘭人ト猶太人トノ利害一致セス協同融和ス期
シ難ク殊ニ巴里平和會議ハ波蘭ノ獨立ヲ認メタリト雖法律
ヲ以テ或ハ猶太ノ安息日ヲ保證シ或ハ猶太人ノ爲ノ特種學校
ヲ設立ヲ許シ或ハ又其ノ教育費ノ國庫補助ヲ規定セル等波
蘭ノ統一ヲ束縛スルコト甚シキモノアリ 猶太人ハ斯クミテ平和會
議ヲ利用シテ波蘭ニ復讐セルノミナラス更ニ惡宣傳ヲ流布ス
ル等其ノ奸惡 執拗ナル復讐心ニハ驚カサルヲ得サルナリ

第四十二章 猶太人問題ノ現狀

米國ニ於ケル猶太人問題ハ今日ニ始マレルモノニ非スシテ既ニ永年
存在シタルモノナリ然レモ公然之ヲ論議スル時ハ直チニ某秘密

0371

威力ノ加ハルト且米人ハ餘リニ人氣ニ腐心スルノ弊アリシカ爲誰一人公然口ニスルモノナカリシナリ然レトモ約一年前ヨリ新聞紙上ニ公々然ト「猶太人」ナル語ヲ使用スルニ至リ猶太問題ヲ云々スルモノ又顯レ來レリ之レ猶太側ニトリテモ非猶太側ニトリテモ好マシキコトニシテ事實ヲ明ニスルハ積弊ヲ一掃スルノ端緒タリ本紙ノ記事モ單ニ猶太人ナルカ故ニ攻敵手スルニ非スシテ猶太首領等カ自己ノ地位ヲ擁護センカ爲ニ一般猶太人ヲ煽動シ其ノ反感ヲ増サシムルニ反對スルモノナリ今ヤ猶太人問題ニ関スル事實ノ證據ハ夥シクシテ既ニ火蓋ハ開カレタリ而シテ猶太首領等ノ之ニ對スル態度ニ徴スルモ猶太側亦既ニ其ノ眞ヲ認メアルヲ看取スルヲ得ヘク結局ハ猶太側ノ見苦シキ失敗ニ終ルヘキハ明ナリ

0372